

第4章 舞台監督

1 舞台監督業務について

舞台監督は、歌舞伎、文楽（人形浄瑠璃）、舞踊（日本舞踊）、邦楽、雅楽、声明、民俗芸能、琉球芸能など、全ての主催公演において、演出家または制作担当者の意を受け、舞台美術、舞台、照明、音響等の調整を行うとともに、本番中の舞台進行を司る総責任者です。現在、歌舞伎座など、他の劇場で行われている歌舞伎公演では、歴史的に舞台監督という職種は存在しません。歌舞伎の上演において舞台監督を置くのは、国立劇場が開場してから始めた独自のシステムです。他の劇場では、きょうげんさくしゃ狂言作者（関西ではきょうげんかた狂言方）が舞台進行の仕事を行っています。国立劇場の舞台監督は、舞台進行以外にも公演が始まるまでに、舞台にかかる予算積算、禁止行為の解除申請、舞台進行表の作成等、公演の終了後には舞台費の決算、舞台記録の整理といった、さまざまな業務を行うのが特徴です。舞台費の予算執行などでは、実際にその公演に深く関わることによって、より確実な情報を得ることができ、舞台進行においても、狂言作者と連携することによって、よりスムーズな舞台転換が行われています。

（1）舞台監督業務の流れ

公演によって、舞台監督としての係わり方に多少の違いがありますが、ここでは公演規模が一番大きく、さまざまな要素を含んでいる歌舞伎公演を例に業務内容を紹介します。

① 演目決定－台本の読み込み

舞台監督としての仕事は、まず演目が決まったらすぐに台本を読み込みます。新作や復活狂言（歌舞伎では「きょうげん狂言」とは作品の意）の時には、決定稿の前に初稿台本が配られますので、それを徹底的に読み込みます。原作がある場合は原作にも目を通します。筋立てを把握することはもちろん、時代背景、各場面の季節、時間、天候など、読み取れる情報を全て書き出します。過去の上演記録やビデオ、どうぐちょう道具帳（57頁参照）などを見る前に、先入観なしに自分のイメージを膨らませることが大切だからです。過去に上演したものを忠実に再現することも大事ですが、古典作品といえどもより効果的な演出等の可能性があるからです。

② 制作・美術との打合わせ

台本を読み込み、問題点等をピックアップしたうえで、制作担当者、美術担当者を交えて、最初の打合わせを行います。美術の担当者が提示するラフスケッチを元に屋体の大きさや、俳優の出入りなどを確認します。

③ 発注会議の招集

公演の稽古がスタートする3週間程前に、公演に関わる全てのスタッフと業者（大道具、小道具、衣裳、かつら、床山）を招集して会議が行われます。これを発注会議と呼んでいます。一つの公演を作り上げるうえで最も重要な会議です。この会議を招集するのも、舞台監督の仕事です。配役や公演の規模によって招集する業者が変わる場合がありますので、細心の注意が必要です。

【台本決定稿の配布】

発注会議の前に、台本の決定稿ができ上がったら、劇場側の各スタッフに配布します。特に新作や復活狂言の場合には、各業者の担当者にも台本を読んでおいてもらう必要がありますので、速やかに発送します。

【スタッフ会議】

発注会議の前には、劇場側の各スタッフを招集し、発注内容の確認を入念に行います。また各業者への発注内容に漏れ等がないように確認します。

④ 舞台費の予算作成

国立劇場の舞台監督は、公演費の一部について、予算の作成と決算も担当します。国立劇場における公演費は、文芸費、出演費、舞台費、宣伝費と大きく四つに分かれており、舞台監督はこのうち舞台費の積算業務を行います。現場について全体を見渡し細部まで把握しているのが、舞台監督だからです。発注会議終了後、速やかに予算の積算業務に取りかかります。

舞台費は、大道具の製作費及び人件費、照明人件費、音響人件費、小道具の損料及び人件費、小裂（地^こ拵^ぎ（^じ拵^がす^りなど）、足袋^{たび}、着肉^ま、鳴物^なりもの、その他があり、それぞれ細かく積算していきます。限られた期間の内に提出しなければならない、非常に時間と労力を必要とする緻密な作業です。

公演終了後は支払いのために、発注会議後に生じた変更内容等の見積もりを精査し、速やかに決算を行います。

⑤ 稽古場稽古

歌舞伎の稽古場での稽古は長くても5日程度、演目によっては2、3日などということも珍しくありません。舞台監督はこの稽古期間のうちに全てを把握し、滞りなく舞台を進行させなければなりません。稽古は、以下の通りに行われます。

読み合わせ

新作や復活狂言などの場合には、まず読み合わせが行われます。ここでは動作は付けません。セリフの言い回しなどに不都合があれば、台本の訂正が行われます。

立ち稽古

2日目の稽古からは俳優が実際に立って、出入りや居^{いどころ}処の確認をします。

附立稽古

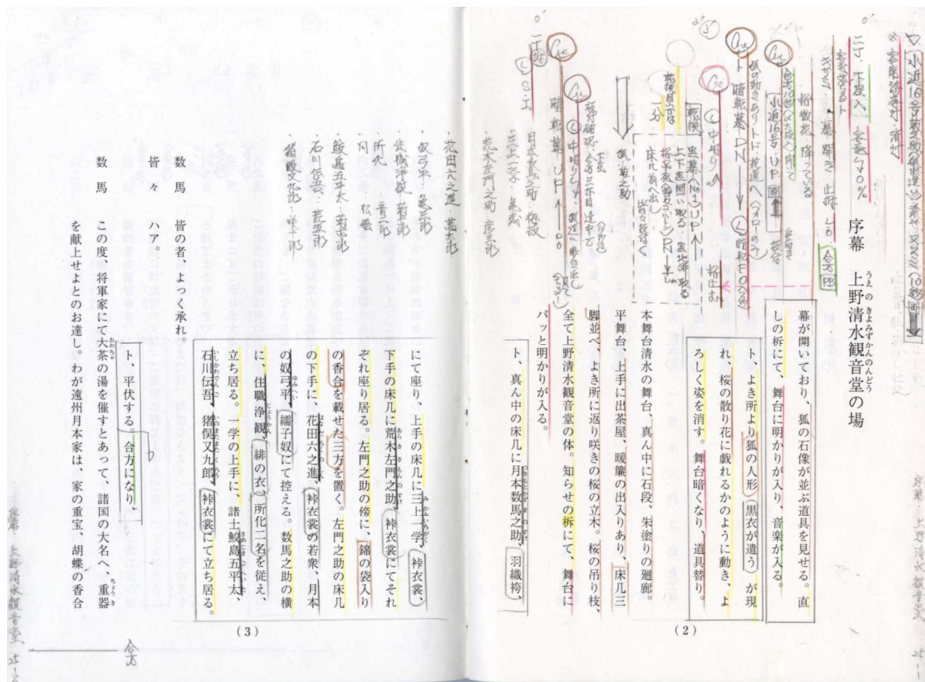
3日目は附立稽古といって、俳優のセリフと動きに合わせて、合方^{あいかた}(三味線音楽)や鳴物を入れ、細かく調整します。

総ざらい

稽古場での稽古の最終日を総ざらいといい、拍子木やツケを入れ、本番通りの流れで総仕上げを行います。

⑥ 台本整理

舞台監督はまず事前の読み込みで、役名の下に配役を、各俳優の出入りの場所、持ち道具などを書き込みます。次いで、稽古場での稽古時に、開幕からの所要時間を細かく書き込んで行きます。自分だけがわかれば良いのではなく、人に見せるつもりで丁寧に書くように心がけます。



台本

⑦ 舞台進行表作成

舞台進行表は、全ての舞台スタッフに舞台進行の流れを理解してもらうための表です。場面転換のキュー（cue）を出すなど、舞台、照明、音響等のスタッフは全てこの舞台進行表を元に動きます。舞台進行表作成が、舞台監督の最も重要な仕事の一つであり、台本を貰った時から始まり、修正があるごとに改訂を重ねて舞台稽古までに仕上げます。情報を書き込んだ台本を元に、場面ごとに、幕開きの段取り（下座唄、鳴物、拍子木等）、俳優の出入り（上手、下手、正面、花道等）、次の場への転換方法（幕、盆廻し等）、所要時間を書き込んで行きます。煩雑な内容をわかりやすくするために、書体や文字の大きさに変化をつけたり、舞台、照明、音響等と、業種別に文字色を変えたり、さまざまな工夫をして、見やすい進行表を作る努力をしています。舞台進行表の良し悪しが、舞台進行の流れを左右すると言っても過言ではありません。

序 幕		プロローグ	
上野清水観音堂の場		小春 穂 沖 津 白 浪	
32	幕開一〇分 客席階段出す(幕内より)	3	花道分
30	入	2	七三
29	早助 花道へ駆け入る。	1	ト、狐道いひよがる。
28	ト、大木内の黒幕切り落とし(後見)	0	ト、狐道いひよがる。
27	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
26	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
25	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
24	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
23	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
22	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
21	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
20	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
19	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
18	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
17	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
16	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
15	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
14	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
13	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
12	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
11	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
10	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
9	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
8	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
7	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
6	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
5	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
4	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
3	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
2	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
1	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、狐道いひよがる。
二幕目 第二場		二幕目 第一場	
(月) 足柄越山中の場		(雪) 矢倉沢一家の場	
2	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	44	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	42	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	39	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	37	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	35	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	34	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	33	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	32	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	31	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	30	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	29	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	28	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	27	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	26	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	25	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	24	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	23	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	22	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	21	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	20	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	19	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	18	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	17	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	16	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	15	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	14	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	13	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	12	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	11	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	10	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	9	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	8	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	7	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	6	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	5	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	4	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	3	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	2	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	1	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。
0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。	0	ト、大木の中より日本駄石衛門、出る。

舞台進行表 俳優は黒、舞台は茶色、照明は赤、音響は緑と色分けし、字の大きさなども一見してわかりやすいように工夫を凝らしています。

⑧ 禁止行為の解除申請

俳優が提灯から蠟燭を出して火を吹き消すような場合や、怪談芝居で使われる人魂(焼酎火)など、舞台上で本火(本物の火)を使う場合、劇場から消防署に禁止行為の解除

申請を行わなければなりません。国立劇場ではこれも舞台監督の仕事です。

⑨ 道具調べ

稽古場での総ざらいの日に、舞台では各場面の大道具を飾り付け、道具調べを行います。この日に俳優立ち会いの下でテクニカルリハーサルを行う場合があります。舞台監督は、転換の段取りをスタッフに伝え、十分な理解を得たうえで指示を出す必要があります。

⑩ 舞台稽古

歌舞伎の場合、舞台稽古は基本的に2日間行われます。歌舞伎に限らず、舞台稽古は舞台監督にとってはまさに正念場です。舞台監督の指示で全てが進行していきますから、この時までには、流れの全てを頭に入れておかなければなりません。台本を目で追ってから指示を出すようではいけません。

次の場面へと舞台を転換する時の方法として、幕を閉めて幕内で転換する、幕を閉めずに観客の見ていない前で盆を廻して次の場面に転換するなどの方法があります。これらの舞台転換は、舞台担当者と協力会社のスタッフが行っています。安全を第一に考えれば、転換をする時に声を出して、お互いに確認し合えば、間違いはないのですが、それでは観客に聞こえてしまいます。そのため舞台監督だけでなく、舞台担当者、各スタッフも段取りを頭に入れておく必要があります。舞台進行表を元に、例えば吊物バトンを飛ばすキュー（cue）は舞台監督が出すのか、舞台担当者が出すのかなど、事前に舞台担当者、各スタッフと十分な確認作業を行います。

舞台稽古ではさまざまな変更がありますから、舞台監督はそれらの全てを確認し、関係する全スタッフ及び業者に変更点を伝えます。

⑪ 初日以降

初日が無事に開いた後も、通常2日目、3日目は演出の手直し等があります。それらも舞台稽古同様全てのスタッフ及び業者と共有します。ある程度演出等が固まってからは、毎日同じことをするわけですから、どうしても各所に慣れが出てきますが、とにかく油断せず、初日の感覚を常に忘れないことが事故や怪我を防ぎ、公演を無事に成し遂げる秘訣といえます。

⑫ 舞台進行テクニック

舞台を進行するにあたって、舞台監督として心得ておかなければならない鉄則があり

ますのでここで紹介します。

【キーワードに注意】

緞帳をきっかけで上げたり下ろしたりする場合、舞台監督は操作室に対して「アップ」「ダウン」という言葉を使用しますが、重要なのはこの合図を出す以外で、このキーワードを使用してはならないということです。「まもなくアップ」や「ダウン用意」という言い方をしてしまうと、「まもなく」を聞き逃したらアップボタンを押してしまいますし、「用意」を聞く前に「ダウン」に反応してしまう可能性があります。なんでもないようなことですが、こうしたことで、無駄なトラブルを防ぐことができるのです。

【常に観客の目線で】

舞台監督は舞台袖がホームポジションであり、そこから舞台を見て、転換等の指示を出すことが、公演中の重要な仕事です。舞台を毎日横から見ているため、どうしても裏方目線になりがちな仕事ではありますが、常に観客の目線で見ることが忘れてはなりません。それが舞台監督としての重要な心得です。

【Next をモットーに】

舞台監督の必需品はストップウォッチです。電池式の場合いつ止まるかわからないので、必ず「次」を考えて、二つ用意しています。キュー（cue）出しに使うペンライトなども同様です。舞台を見る場合も次を考えて、常に先の動きを把握します。何事もNext（次）を考えるのが大事です。

⑬ 舞台記録の整理

公演が終わったら次回の上演のための資料を作成します。それぞれの役ごとに衣裳、持ち道具、かつらなどを一枚にまとめて、各役の数だけ作ります。これを俳優^{つけちょう}附帳といい、できるだけ正確に作るのが重要です。国立劇場ではこれらを基に、「扮装^{ふんそう}図鑑^{ずかん}」としてデータベース化して、将来の上演に活用することにしています。歌舞伎は再演されて熟成していくものなので、先輩が積み上げたところから、次世代がスタートできるようにするため、記録が重要です。

（2）舞台監督スタッフ

舞台監督の職員は6名で（令和4年6月現在）、さまざまな公演をローテーションで

回しています。基本的には1公演を1名が担当しますが、歌舞伎のような長期公演では万が一に備えて、初日まで2名が付くという体制にしています。

(3) 公演種別

① 主催公演

舞台監督の仕事は基本的に主催公演が主となっています。

② 貸劇場公演

貸劇場の公演は基本的には担当しません。年に数回ですが、貸劇場公演主催者から技術協力の依頼があれば担当することがあります。

③ 公演以外の催事

式典などの催事に劇場を貸し出す場合のほかに、観客を舞台裏に案内して、説明を行うバックステージツアーなどの仕事があります。

(4) 舞台監督業務の次世代への継承

歌舞伎や文楽など伝統芸能の舞台監督というのは、国立劇場ならではの職種です。オペラやバレエ等、現代舞台芸術の舞台監督同様、特殊な知識と長年の経験が必要です。現在、国立劇場では、数年に一度新規採用をしており、基本的には一から教えます。俳優になんとか顔を覚えてもらってやっと一人前という面もあります。

最初の1年間とはとにかく現場を見て、国立劇場の舞台がどういうものか学びます。2年目は全部の主催公演にできるだけ付いて、どういう仕事か理解を深めます。3年目から見習いで少しずつ実地を体験し、4年目から一本立ちを目指します。大変な仕事ですが、それだけに面白さがありますので、とにかく芝居が好きという人にやってもらいたい仕事です。

2 舞台監督業務における安全対策

舞台監督は舞台進行を司る総責任者であり、公演に関するさまざまなリスクを予測し、未然に防ぐことが求められます。各公演に向けて行われる打合わせでは、関係スタッフとともにリスクとその対策を検討し、必要に応じてリスク対応表を作成し、舞台進行表と共に各スタッフに配付します。出演者及びスタッフにとって無理のないスケジュールの管理も、舞台監督の重要な仕事です。

なお、鑑賞教室や文楽公演で使用する字幕は舞台監督美術課の管轄であり、LED装置

の設置や、字幕スクリーンの吊り込みは高所作業となることから、墜落時保護用／飛来・落下物兼用ヘルメット及び安全靴の着用、安全監視要員の配置ほか、十分な安全対策を実施して行います。

R0307歌舞伎鑑賞教室 舞台上の事故リスク対策表

変更箇所一赤字、及び人身に関わる項目のみに編集

令和3年6月29日

制作部舞台監督美術課

場面	演出内容	発生の恐れがあるリスク	リスクを負う可能性 がある役名・人物	現状の防止対策・状態	担当・管理	備考
解説	スッポン	昇降機構の停止	狐、狐忠信	・毎朝起動チェック	舞台課 舞台監督	
河連法眼館の場	黒三段乗り込み	頭部の打ち付け	忠信	・屋体下導線確保 ・必要に応じ緩衝材等設置 ・手元明かり設置	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	黒三段の出	頭部の打ち付け	忠信	・正面切面部分は布地 ・事前注意、声かけ	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	ロープ海老反り	綱元ロープの外れ、ロープ破断	忠信	・開演前動作確認 ・きっかけ時に屋体下綱元付近に大道具要員待機	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	下手二重へ足掛け上がる	足掛りの破損	忠信	・開演前動作確認、必要に応じ補強追加	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	下手正面へ足掛け上がる	足掛りの破損	狐忠信	・開演前動作確認、必要に応じ補強追加	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	欄干渡り	足場のぐらつき、きしみ	狐忠信	・開演前動作確認、必要に応じ補強追加	舞台監督 大道具	
河連法眼館の場	下手柴垣飛び込み	開口部開かず衝突	狐忠信	・開演前動作確認 ・横開き仕様へ変更に伴い忠信本人でも開口可能	大道具 舞台監督	
河連法眼館の場	緑下への移動	頭部の打ち付け	狐忠信	・屋体下導線確保 ・必要に応じ緩衝材等設置 ・手元明かり設置	舞台監督 大道具	
その他	竹本床階段上り下り	階段から転落	竹本、舞台事務所	・6/17検証のち階段メンテナンス実施	舞台課 舞台監督	

リスク対応表の例

令和3年3月26日、放送・芸能等にかかわる各団体に対して関係省庁から発出された「芸能従事者の就業中の事故防止対策等の徹底について」を参照すると、「フリーランスを含めた芸能従事者の就業中の事故防止対策等を徹底するため」制作管理を行う者が取り組むべき安全衛生対策として、「1. 計画段階における安全性の検討」「2. 現場における災害防止措置」「3. 安全衛生に関する対策の確立等」の3項目が提示されています。中でも、「2. 現場における災害防止措置」のうち「(2) 演技、撮影、照明塔の作業における危険の防止」では、次のように示されています。

- ・演技、撮影、照明等の作業の方法については、防護設備又は保護具の必要性、演技者、撮影者等の技能レベルに応じた演技速度の調整、訓練又は練習の必要性を検討し、安全な方法により作業を実施すること。

国立劇場では、出演者の安全を守るため、リスク対応表においてリスクが生じる恐れがあるとされた演出内容については、物理的な安全対策を徹底するとともに、十分な技量を持った出演者を配し、熟練度を上げるための稽古日程を十分設けたうえで上演につなげるよう、制作担当の職員とも連携しながら対策を実施しています。